

第5章 乳幼児を持つ家庭への対応

第1節 【問題意識】乳幼児期の支援の必要性

子どものライフステージの第1段階となる「乳幼児期」における子どもと子育て家庭の支援を検討した。

近年の子育て支援施策では「切れ目のない支援」の必要性が挙げられている。少子化、核家族化、子ども関わる経験の不足などを背景にした孤立した育児から児童虐待に発展するケースもある。産前産後から乳幼児期、その後の児童期に至るまでの切れ目のない支援が切望されている。児童館は、利用対象が0から18歳未満であり、地域の全ての児童に対応できることから、この切れ目のない支援を展開する拠点としての可能性がある。

児童福祉法等の改正により、各自治体に子育て世代包括支援センターや支援拠点の設置が望まれている。新規の施設を設置することだけではなく、その機能に着目し、自治体内での連携や調整が必要とされる。これらは課題の有無にかかわらず、子育て中の保護者を全て対象としていることから、ポピュレーション・アプローチ（用語解説92ページ参照）として位置づけられるものであり、児童館もこの中での役割発揮が期待されていると思われる。

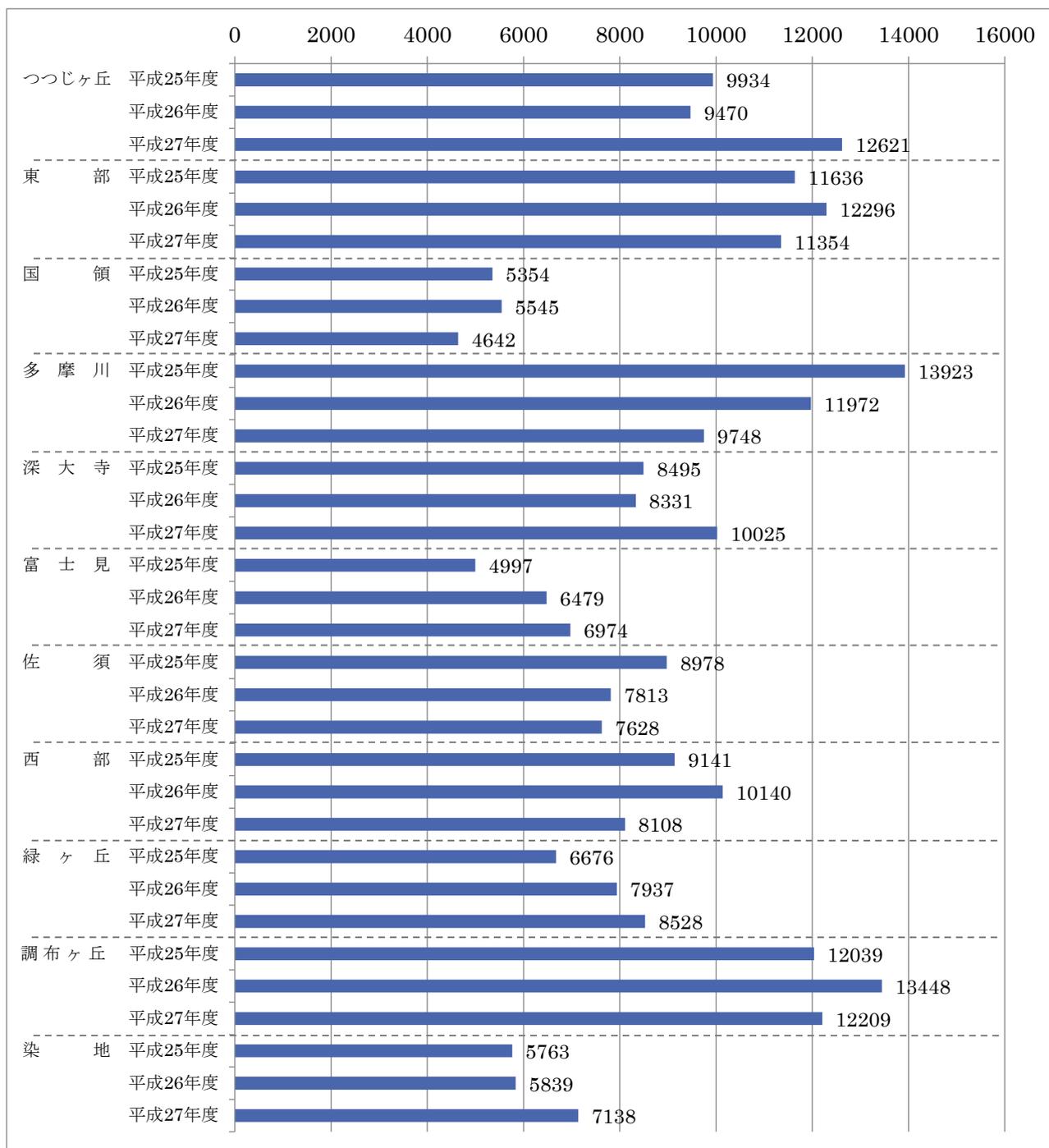
第2節 【現状】乳幼児家庭の利用状況について

市の児童館では、開館当初から乳幼児の来館があり、支援活動を展開してきた。そのあゆみは以下のとおりであり、年々施策を拡充してきていることがわかる。

開館以降、幼児（特に3歳児）を対象とした事業や昭和50年代後半から施設開放を実施	
1996（平成8）年	子育てセンター事業開始（多摩川・染地）し、相談員を配置
1997（平成9）年	子育てセンター事業開始（つつじヶ丘・富士見）
1998（平成10）年	「子育てセンター」を「子育てひろば」に名称変更 子育てひろば事業を緑ヶ丘・調布ヶ丘で開設（計6館）
1999（平成11）年	「調布市子育てひろば専門嘱託員規則」の制定 以後順次、子育てひろばを各児童館に設置
2008（平成20）年	子育てひろば全館設置完了（国領）
2015（平成27）年	乳幼児施設連絡会実施（富士見・国領）
2016（平成28）年	乳幼児施設連絡会全館実施 助産師相談を全児童館で実施（月1回）

児童館では、「子育てひろば」事業を1つの柱として位置づけ、重要視している。子育て相談員を配置し、生活に身近な場所での子育て支援を目的に実施している。その利用者数は増加傾向にある。特に、つつじヶ丘児童館では専用室が設置できているため、利用者も多く、またその滞在時間も長い状況が見られる。このほか、佐須児童館でも専用室の確保がされている。

各児童館における平成25～27年度の子育てひろば利用者数は、次図のとおりである。



市内の各児童館では毎年「子育てひろば」利用者にアンケートを実施し、次年度の事業運営に役立てている。ここでは、結果を分析した。なお、調査結果の詳細は巻末（95 ページ以降）に掲載する。

(1) 調査概要

実施期間：2016年2月上旬

方法：児童館で配付，回収

対象：ひろばを利用している保護者

設問内容：属性，子どもの年齢，利用のきっかけ，プログラムについて，相談員について，今後の希望など

回答数：564

(2) 集計結果・分析

1館のみ%集計となっており，複数回答が想定されるため，合計に反映できなかった。施設により質問が異なるため，母数(N)が異なる。

①子どもの年齢(集計対象 N=501)

0歳	1歳	2歳	3歳以上
151 (30.1%)	178 (35.7%)	115 (22.9%)	57 (11.3%)

②利用のきっかけ(複数回答 N=504)

さまざまな経路での紹介や情報収集により来館していることがわかる。

友人・知人の紹介	115	
保健師(訪問)	98	
ホームページ	75	
市報	47	
元気に育て!!調布っ子	20	*市の発行する子育て支援情報誌(年1回)
すこやか	14	*子ども家庭支援センター
児童館のおたより	10	
市役所(各課)	9	
おむつ袋	8	*乳幼児のいる世帯に無料の「おむつ袋」を配付。交付窓口の一つが児童館になっている。
母親学級	3	
その他	59	近所，通りすがりなど

③子育てひろば事業に参加して良かったこと(複数回答 N=185)

- 保護者への効果としては，「お友達ができた」(86/46.5%)，「情報交換ができた」(42/22.7%)など交流の場として活用されていることがわかる。
- 子どもへの効果としては，「体を動かすことができる」(11/5.9%)，「親子で楽しく遊べる」(7/3.8%)など遊びや体験の場として活用されていることがわかる。
- プログラムの面では，「家庭ではできないことができた」(19/10.3%)，「職員タイムの遊び，歌など」(8/4.3%)と家庭では日常的にできないことが求められていることがわかる。
- 設備等の面では，「おもちゃがたくさんある」(8/4.3%)，「雨の日にも利用できる」(4/2.2%)などが挙げられた。

④相談員の認知度 (N=101)

子育てひろばには相談員が配置されているが、利用者からは児童館職員なのか相談員なのかはわからない状況があると推察される。

相談員がいることを知っている	知らない
7 8 (77.2%)	2 3 (22.7%)

⑤相談員・職員への相談経験 (N=154)

相談経験は「ある」「ない」がほぼ同数となった。

困ったことや悩みを聞いてもらったことがある	ない	無回答
7 5 (48.7%)	7 1 (46.1%)	8 (5.1%)

⑥感想

利用しての感想を聞いている。カテゴリ毎に整理を試みた。代表的なものを掲載する。

A. 感謝
<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろなママと話ができて、情報を得ることができたり、悩み事が解決でき、嬉しい ・家の中で二人きりでいると煮詰まるので、このような場所があって助かっている ・悩んでいることや困っていることを相談させていただいたり、(中略)助けられました。子どもの成長だけでなく自分自身にとって、すごく支えてもらっていた場だと思っています。
B. 子どもの成長
<ul style="list-style-type: none"> ・子どもがのびのび遊べて、とても成長したと思う ・子どもがたくさんいるので刺激になっている
C. 設備
<ul style="list-style-type: none"> ・おもちゃがたくさんあり、清潔で使いやすい ・雨の日、暑い日、寒い日、児童館で遊べると助かる
D. ランチルーム
<ul style="list-style-type: none"> ・環境を整えてくださっているので満足です。 ・昼食後も遊ぶことができれば利用すると思うが、それができないので利用しない

第3節 【課題分析】子育てひろばや乳幼児家庭の支援に関する課題

第3章の利用者アンケートでは、保護者に対して「子育てひろばを利用しなかった理由」(N=63)を聞いている。回答結果の上位としては、「子育てひろばを知らなかった」(33.3%)、「家にいるほうが気楽だから」(19.0%)、「時間帯や開館日が合わない・利用しづらい」(17.5%)が挙げられた。

前節の児童館で実施したアンケートでは要望も寄せられている。例えば、「時間を延長して欲しい」「開設日を増やして欲しい」「設備面での充実」「職員の対応の改善」などがあつた。

これらから、現在の児童館における乳幼児を持つ家庭の支援活動においては、いくつかの課題が見いだされる。

① 三季休業や平日の午後などは小・中学生の利用が中心となるため、乳幼児親子の利用が限定されている。

② 相談員の勤務体制（1館あたり1人・週4日配置）、児童館職員の事務量の増加により、十分に利用者対応ができていない。

③ 相談員や児童館職員の力量や考え方による事業展開の偏りがある。

④ ハード面で不足している部分がある。例えば、専用室の有無、乳幼児の子育て家庭に適した施設かどうか、屋外活動の制限、備品や環境設定などが挙げられる。

⑤ ソフト面で不足している部分がある。例えば、相談機能や、情報提供機能についてが挙げられる。

⑥ 児童館での乳幼児家庭支援活動に関して、周知・広報が弱い部分がある。例えば、妊娠期から子育てひろばを利用することは可能だが、利用実態としては少ない状況がある。

第4節 乳幼児を持つ家庭のための児童館の将来像に求められる機能・役割

前節までの現状把握、課題やニーズ把握の結果から、乳幼児を持つ家庭に対しての児童館の必要性や展開されるべき事業、求められる機能・役割について議論をおこなつた。

< 市民にとって身近な児童館が子育て支援の地域拠点として必要である。 >

乳幼児を育てる保護者にとっては、アクセスが容易であり、身近な雰囲気を感じることができる場所が必要とされている。現在実施している「子育てひろば」はそのニーズに合致しており、継続して実施されることが期待される。

< 気軽に利用できる（ニーズがなくても来ることができる）ことをアピールする必要性がある。 >

予約なく気軽に利用できる児童館は保護者にとっての「居場所」になり得る。そこで出会う子育て仲間との交流が、子育て不安の解消につながるなど、子育てに対して肯定的意識を持つことになり、虐待等の課題の発生予防にもつながる。

< 他機関との連携が児童館の活動の支えになったり、活動を補ったりすることにつながる。 >

子育てには悩みがつきものである。些細な課題もあるが、隠れた深刻な課題に向き合わざるを得ないこともある。児童館だけが全ての子育ての課題に対応できるわけではない。どの機関も連携しながら、専門性を発揮し、多様な課題に対応している。児童館も複合化・複雑化する児童の様々な問題に対応するために、高齢、障害などの福祉機関や保健・医療機関との連携を欠かさず、課題解決への支援を行うことが求められる。

< 乳幼児から利用することにより、児童期はもちろんのこと、それ以後にも関わることができ、妊娠期にもつながり、切れ目のない支援を児童館は果たす可能性がある。 >

児童館のプログラムの多くは「遊び」を通じた健全育成である。乳幼児期の遊び体験が発達を促し、その後の児童期の豊かな活動につながっていく。保護者の切れ目ない支援は勿論のことだが、子ども自身にとって切れ目ない成長・発達支援を担っている児童館には可能性が詰まっている。

これらから、乳幼児家庭に対する児童館に求められる機能・役割としては、以下の5点に整理した。

- 子育て中の親子への居場所の提供と交流の促進
- 課題を抱えた家庭に対する支援
- 乳幼児の遊びに対する支援
- 子育てに関する様々な情報の提供
- 子育て全般（保健・福祉・医療）に関する相談支援

また、そのために必要な「地域・関係機関との関わり」「職員の資質」「情報発信力」「施設・設備」について次図のようにまとめた。

「乳幼児家庭のための児童館の将来像」に求められる機能・役割

児童館に求められる機能・役割

- 子育て中の親子への居場所の提供と交流の促進
- 課題を抱えた家庭に対する支援
- 乳幼児の遊びに対する支援
- 子育てに関する様々な情報の提供
- 子育て全般（保健・福祉・医療）に関する相談支援

そのために必要な・・・

地域・関係機関との関わり

- 近隣の乳幼児施設との連携を図るための乳幼児施設連絡会の実施
- 地域のネットワークや要保護児童対策地域協議会などへの積極的な関与により、課題のある子ども・家庭への支援
- 支援が必要な乳幼児家庭について関係機関との連携・協力
- 乳幼児向け行事・イベントにおいて近隣地域で活動する児童館支援者の募集及び活用

職員の資質

- 保護者の子育てに関する相談・悩みを聞くことのできる職員
- 子どもの発育や子育てに関して広く助言ができる職員
- 乳幼児に対して様々な遊びを提供できる職員
- 講座等を通して子育てに関するヒントを保護者へ提供できる職員
- 利用者同士の関係づくりができる職員

情報発信力

- 乳幼児向けイベントに関して、市HPで情報発信するとともに、おたより（通信）を発行して広く情報を提供
- 乳幼児施設連絡会における児童館の持つ情報の発信
- コサイトやSNSの活用

施設・設備

- 乳幼児向けプレイジム、プレイランド、幼児用プール等の充実
- 乳幼児用トイレ、ベビーチェア等の充実
- 乳幼児家庭が親子でランチが出来る空間及び時間の確保
- 子育て中の仲間と作ったサークルの活動場所の提供